

国立国語研究所学術情報リポジトリ

<報告> フィリピンにおける漢字教育の現状：
フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習ビリー
フとストラテジー使用について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ヴェントウーラ, フランチェスカ メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000939

フィリピンにおける漢字教育の現状

—フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習ビリーフと ストラテジー使用について—

フランチェスカ・ヴェントウーラ

フィリピンはどんな国？

本題にはいる前に、フィリピンについて少し話したいと思います。フィリピンはご存知のように、東南アジアにある島国で、現在人口は

- 多民族・多文化・多言語国家
- 人材輸出国
- コールセンターやビジネス・プロセス・アウトソーシング会社(BPO)が多い



図1 フィリピンはどんな国？

一億人を超えています。そのなかで、マレー系フィリピン人、中国系フィリピン人、スペイン系フィリピン人や少数民族がいます。多民族国家ですので、フィリピン国内の言語数は百言語以上にもなっています(図1)。公用語として英語もよく使われています。

また、特徴としてフィリピンは人材輸出国であることがあげられます。一九七〇年代からフィリピン政府は労働者が世界各国へ出稼ぎにいくことを奨励しはじめまし

た。現在、外国に出稼ぎにでているフィリピン人は一千万人を超えています。

そして、二〇〇〇年からフィリピンでコールセンターやビジネス・プロセス・アウトソーシング会社(BPO)が多くなって、現在約八十万人のフィリピン人がコールセンターやBPOで働いています。このような企業はもととアメリカやイギリスの企業を支えるための英語をサポートしていましたが、最近スペイン語、中国語、タイ語、ベトナム語、フランス語と日本語などのサポートもしています。以前、日本語のできる人材を必要としていたのは日本企業だけでしたが、現在ではコカコーラ、IBM、ネスレー、ドイツ銀行のような多国籍企業とその下請けをしているアウトソーシング

フランチェスカ・ヴェントウーラ (Francesca VENTURA)



国際交流基金マニラ日本文化センター非常勤講師。Deutsche Knowledge Services, Senior Associate。2007年、政策研究大学院大学日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)を修了。アテネオ・デ・マニラ大学、フィリピン大学IT研修センターなどフィリピンの様々な日本語教育機関で日本語を教える傍ら、国際交流基金マニラ日本文化センターの教材作成チームのメンバーとして、フィリピン中等日本語教育用教材『enTree - Halina! Be a Nihongojin!! -』の開発のほか、中等日本語教育の教師養成にも携わってきた。

会社(図2)も日本語能力を必要としており、このような仕事に就くために日本語能力試験のN1、N2合格が条件になっています。

日本語能力試験というのは、日本語を母語としない人を対象に、日本国際教育支援協会と国際交流基金センターが行う日本語の試験です。一番高いレベルがN1で、N1に合格するためには、漢字を二千程度と、語彙を一万語程度を習得しなければなりません。N2はN1よりハードルが低いですが、それでもN2に合格するためには、漢字を千字程度と語彙六千語程度を習得しなければなりません。

フィリピンにおける日本語教育

フィリピン人の日本語学習者の人数は、二〇一二年に約三万二千人にのぼり、世界十位になりましたが、N1とN2に合格するフィリピン人の日本語学習者は非常に少ないのが現状です。現地の先生に、「多くのフィリピン人の日本語学習者は、なぜ、日本語能力試験N1、N2まで至らないのですか」と聞くと、「漢字に慣れていないフィリピン人にとつて漢字学習は困難であるからだ」という意見がよく聞かれます。でも、漢字自体の難しさに影響を及ぼしていると考えられます。フィリピンの日本語教育機関においては、



このような仕事に就くために日本語能力試験のN1かN2合格が条件になっている！
しかし、N1とN2に合格するフィリピン人日本語学習者が非常に少ない。

図2 フィリピンはどんな国？

漢字はよく平仮名と片仮名の修業後すぐに教えられます。大学と日本語学校では、漢字は日本語の授業の一部として扱われることが多いのですが、十か月くらいの集中日本語コースを実施し、漢字を独立した課題として扱っている機関もあります。集中日本語コースと一般の日本古語の授業における日本語の漢字教育の主な違いは、漢字を教える時間数と学習漢字の数です。よく使われている教科書には、ベース漢字五百字となっています。多くの場合、違う教材を使っても、授業の内容も、漢字を教える際に用いられている指導要項もほとんどかわりません。

一般の日本語の授業は、週二回程度行われ、各授業時間は一時間半から二時間となっています。そのなかで漢字指導は週一回か二回で二十分から三十分程度行われ、学習漢字数は五字から十字となっています。一方、集中日本語コースでは、漢字の指導は週一回か二回で、授業の時間が二時間から三時間程度で、学習漢字数は約二十字から二十五字となっています。機関として初級段階での到達目標は、日本語能力試験N4合格者レベルで、学習漢字数は五百字です。中級段階の到達目標はM2合格レベルで、学習漢字は千字となっています。

フィリピンにおける漢字教育の問題点

フィリピンでは、漢字は一般的に似たような方法で教えられています。図3は『BASIC KANJI BOOK』からとったもので、これを見ながら学生は漢字を勉強します。まず、教師は教えようとしている漢字を学習者に見せて、漢字の意味を英語かフィリピン語で説明します。そのあと、漢字の読み方と熟語を学習者に読ませます。学習者が漢字の意味と読み方がわかったら、教師は漢字の書き順を見せるために、漢字を黒板やホワイトボードに書き、升のある漢字シートに五から十回くらい漢字を書いてもらいます。そして最後に、教師はフラッシュカードを使って熟語の読みの練習を行います。漢字の授業が終わったら、教師は練習シートを集めて、次の授業でクイズをします(図4)。

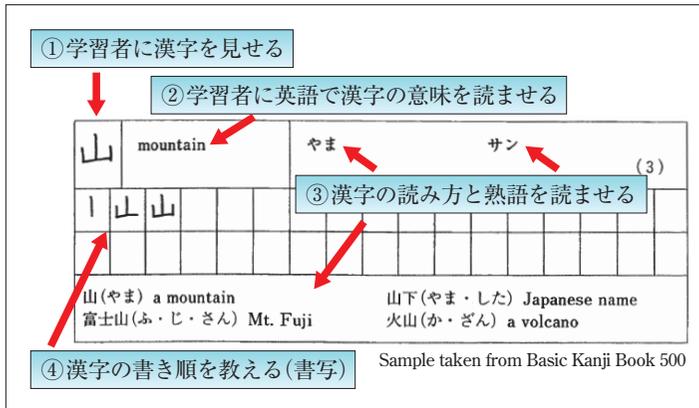


図3 漢字の教え方

フィリピンにおける漢字教育の問題として、次

のような問題があげられます。

まず、フィリピン人日本語学習者は、漢字に対して否定的なイメージをもっているのではないかと考える日本語教師が少なくないことです。

また、一般的な日本語の授業は文法が中心となっているので、教師は先に文法を説明して、余った時間で漢字を教えることが多くなっています。さらに、学習者の漢字学習に対するモチベーションが下がり、欠席が多くなったため、漢字学習過程に影響を及ぼしている要因を把握する必要があります。

漢字学習過程に影響を及ぼしている要因には、学習者要因と、学習環境要因、そして社会・伝統・文化的要因があります(図5)。この要因は、学習者と教師の漢字学習に対するピルーフに影響を与え、学習ストラテジー使用、教授ストラテジー使用と学習成果を左右しています。ここから学習成果をあげるには、フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するピルーフとストラテジー使用についてみていくことが必要だと考えられます。

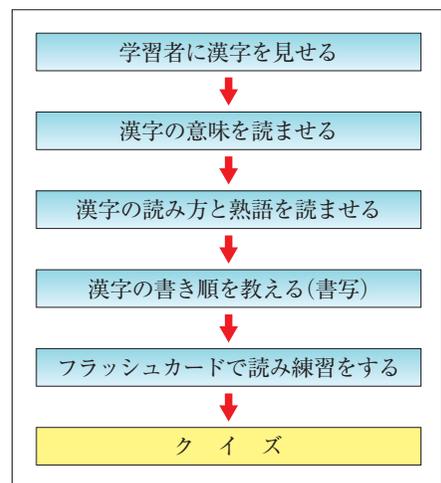


図4 漢字の教え方

漢字学習に対するピリーフ

漢字学習に対するピリーフというのは、人々がそれぞれ漢字学習方法や、その効果などについて自覚的または無自覚的に思っていること、感じていること、そして信じていることすべてです。たとえば、私が

日本語を勉強しはじめたとき、漢字を読みたいので、楽しい。いい成績をとるには、漢字の意味、訓読み、音読みを同時に覚えたほうがいい。漢字を覚えると、日本語能力が上がる。漢字を覚えるには、復習が欠かせないものなどのピリーフをもっていました。私はこのピリーフを七つの領域に分類しました。

①私の国は日本と文化的、政治的、経済的な関係をもっているため、漢字の社会的、伝統的、文化的な価値に対するピリーフ

②漢字の読み書きは難しく、日本語学習の障害になっているような漢字の難しさに対するピリーフ

③四十歳以上の大人にとって漢字学習は難しい、中国語学習経験のある学習者は、漢字は得意だというような

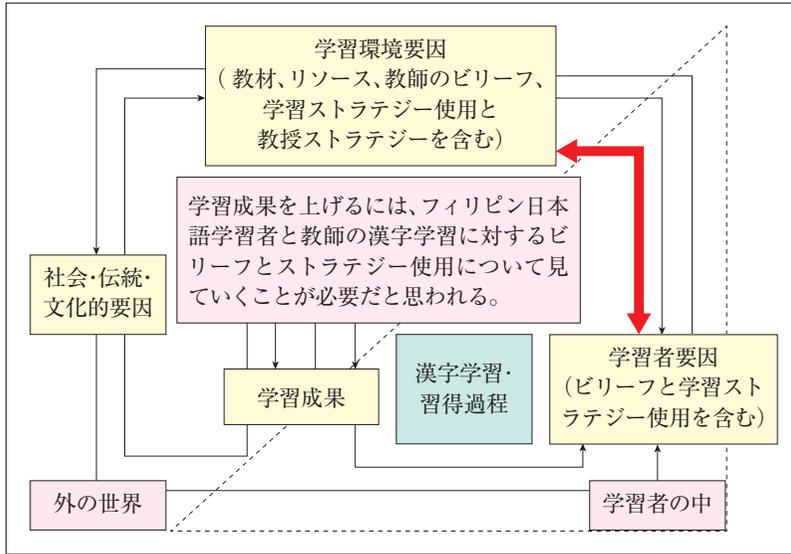


図5 漢字学習過程に影響を及ぼしている要因

適正に関するピリーフ

④漢字の読み書きができるるとよい仕事に就けるような、漢字の有効性に対するピリーフ

⑤漢字を勉強するのが楽しいというような、漢字のよい面に対するピリーフ

⑥漢字を教える際、教師はさまざまな教授法を使用しなければならぬというような教師の役割に対するピリーフ

⑦漢字の書き順に注意を払わなければならないような漢字学習法に対するピリーフ

フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するピリーフ

フィリピンで行った二〇〇七年と二〇一四年の調査から、フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するピリーフを具体的に見ていきましょう(図6)。

漢字に対するピリーフと学習戦略使用を知るために、フィリピン人日本語学習者主に大学生と社会人と、彼らの教師を対象にアンケート調査とインタビュー調査を行いました。なお、フィリピンの学校制度は日本と異なっており、大学には十四歳から二十一歳までの学生がいます。フィリピン人日本語学習

者と教師のビリーフとストラテジー使用を知るために調査を行いました。変化を調べるために、二〇一四年にも同じ調査を行いました。二〇〇七年のアンケート調査の対象者は、フィリピン人日本語学習者九機関二百九名と、フィリピン人日本語教師十五機関二十五名です。そのなかの三十四名の学習者と八名の教師をインタビューしました。一方、今年行ったアンケート調査の対象者は、フィリピン人日本語学習者五機関百名と、フィリピン人日本語教師五機関十二名で、そのなかで三名の学習者と三名の教師をインタビューしました。

二〇〇七年の調査結果から、学習者のビリーフは全体的に肯定的でしたが、教師のほうは否定的で、学習者には漢字学習における適正がないと考えていたことが明らかになりました(図7)。また、フィリピン人日本語学習者は、漢字学習において教師に対する期待が高く、教師に積極的役割をはたしてほしいと考えていることがわかりました。

教師の役割についてアンケート調査の自由記述と、学習者に対するインタビューでは、教師は漢字の勉強をよりおもしろく、わかりやすくするために、漢字学習ストラテジーを教えるべきだ、学習者に動機を与えるために教師は宿題、練習、クイズなどを与えるべきだという意見が聞かれました。教師は、教師の役割を自覚していましたが、彼らは漢字学習法を教師の役割より重視していたことがわかりました。学習者のビリーフのなかで、漢字の有効性が一番重要な役割をはたしていました。それに比べて、教師のビリーフのなかで漢字学習法が一番重要な役割をはたしていたことがわかりました。

二〇一四年の調査結果は、二〇〇七年の調査結果とあまりかわりませんでした。次の変化が見られました(図8)。まず、フィリピン人

日本語学習者だけでなく、教師も漢字の有効性を重視するようになりました。これは最近何人ものフィリピン人日本語教師は、日本語学校や大学だけでなくビジネス・プロセス・アウトソーシング会社などで働くことになりましたので、彼らも前より漢字の有効性を認めるようになりました。

次に、若くて日本のポップカルチャーに興味のある教師が増えていきますので、教師も漢字と漢字学習に対してもっと肯定的なイメージをもつようになってきたと思われます。

最後に、教師のほうは適正に関するビリーフが強いが、学習者のほうは「努力すれば誰でも漢字が覚えられる」と強く思っていることがわかりました。

ここまでビリーフについて述べてきました。次に、ストラテジーについてお話ししたいと思います。

漢字学習ストラテジー

簡単にいうと、漢字学習ストラテジーは漢字学習方法ですが、定義としては、漢字学習によりやさしく、より早く、より楽しく、より自主的に、より効果的に、そして新しい状況にすばやく対応するために学習者がとる具体的な行動です。

この漢字学習ストラテジーには、五つの領域があります(図9)。最初は、新しく習った漢字をできるだけ文や作文で使ってみる、漢字を一つの字ではなく熟語の一部として覚える、文脈から知らない漢字の意味をあてみるなどの文脈学習ストラテジーです。簡単にいうと、

2007年の調査	2014年の調査
2007年3月～7月 マニラ ①アンケート調査 対象者: ・フィリピン人日本語学習者 (9機関・209名) (大学生と社会人) ・フィリピン人日本語教師 (15機関・25名) ②インタビュー 対象者: フィリピン人日本語学習者(34名) フィリピン人日本語教師(8名)	2014年7月20日～8月27日 マニラ アンケート調査 ①対象者: ・フィリピン人日本語学習者 (5機関・100名) (大学生と社会人) ・フィリピン人日本語教師 (5機関・12名) ②インタビュー 対象者: フィリピン人日本語学習者(3名) フィリピン人日本語教師(3名)

図6 学習者と教師の漢字学習に対するビリーフの調査

学習者	教師
★漢字学習に対して全体に肯定的である ①「教師の役割」への期待が高い ②「漢字の有効性」に特徴がある	★漢字学習に対して否定的 ①「教師の役割」を自覚している ②フィリピン人学習者には適性がない ③「漢字学習法」に特徴がある

図7 学習者と教師の漢字学習に対するビリーフの比較(2007年)

- 教師も「漢字の有効性」を重視するようになった
- 漢字学習に対して肯定的なイメージを持っている教師が増えている
- 教師の方は適性に関するビリーフが強いが、学習者の方は、「努力すれば、誰でも漢字が覚えられる」と強く思っている

図8 学習者と教師の漢字学習に対するビリーフ(2014年)

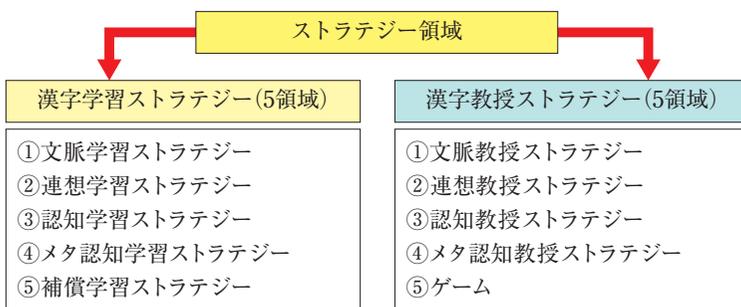


図9 漢字学習ストラテジーと漢字教授ストラテジーの5つの領域

文脈学習ストラテジーは、言葉の意味や使い方を推測したりする方法です。

二番目は、新しく習った漢字を必修仮名と漢字で連想する、知っている漢字を、形、意味または音でグループに分ける、漢字を覚えるためにストーリーをつくる、などの連想学習ストラテジーです。連想学習ストラテジーというのは、漢字の成り立ちのようにストーリーを考

えながら学ぶ方法です。

三番目は、フラッシュカードを使って似ている漢字の違いを観察する、新しく習った漢字を覚えるために、それを繰り返して書く、よく知らない漢字に振り仮名をふるなどの認知学習ストラテジーです。認知学習ストラテジーというのは、他の漢字との違いを意識しながら学んだり、繰り返し読み書きしたりする方法です。

四番目は、自分の漢字学習について考える、先生から習った漢字学習ストラテジーを利用するなどのメタ認知学習ストラテジーです。メタ認知学習ストラテジーは、自分の学習方法について振り返り、今後の学習方法について考えたりする方法です。

最後の領域は、補修学習ストラテジーで、これは漢字の意味、読み方などを調べる方法をさしています。

漢字教授ストラテジー

簡単にいうと、漢字教授ストラテジーは漢字を教えるときの方法で、漢字をよりやさしく、より早く、より楽しく、より効果的に教えられるために教師がとる行動や工夫をさしています。漢字教授ストラテジーも五つの領域に分けました。

- ① 漢字を教える際に生教材を利用します。既習漢字が含まれている文章を学生に読ませるなどの文脈教授ストラテジー
- ② 漢字を教える際に、新しく習った漢字を、仮名または必修漢字と関連づけます。学生が漢字を覚えられるようにストーリーをつくるなどの連想教授ストラテジー
- ③ 漢字クイズやテストを頻繁して、漢字を覚えるとき、書き順を強調するなどの認知教授ストラテジー
- ④ 学生にさまざまな漢字学習ストラテジーを紹介して、漢字学習に利用できるリソースを紹介するなどのメタ認知教授ストラテジー
- ⑤ ゲーム

学習者の漢字学習ストラテジー

今回は時間の都合もあるため、学習者の漢字学習ストラテジーに着目してお話しします。

二〇〇〇年の調査で学習者と教師の漢字学習ストラテジー使用を調べて比較した結果、次のことがわかりました(図10)。学習者は、漢字の形を覚えるストラテジーをより利用しています。漢字の音または読み方を覚えるストラテジーはあまり使いません。一方、教師は形だけでなく、音を覚えるためのストラテジーもよく使用しています。これは、初級レベルの学習者と中・上級レベルの学習者のストラテジー使用の違いと考えられます。

次に、教師は学習者に比べると、辞書をよく利用していることが明らかになりました。

最後に、学習者と教師のあいだで、漢字学習ストラテジーを使用する人は、アンケートの質問項目以外に、さまざまなストラテジーを使っていることがわかりました。自由記述とインタビューで、学習者

学 習 者	教 師
① 漢字の形を覚えるストラテジーが多く、漢字の音を覚えるストラテジーが少ない ② 辞書をあまり使わない ③ 学習ストラテジーを使う人はさまざまなストラテジーを使っている ★質問項目以外にもさまざまなストラテジーを使っている	① 漢字の形と音を覚えるストラテジーも使っている ② 辞書をよく使う ③ 学習ストラテジーを使う人はさまざまなストラテジーを使っている ★質問項目以外のストラテジーを使っていない

図10 学習者と教師の漢字学習ストラテジー使用の比較 (2007年)

順位	学習者	教師
1	新しく習った漢字の形を目で覚える(認知)	漢字の訓読みと音読みを同時に覚える(連想)
2	新しく習った漢字を繰り返して書く(認知)	漢字を1つの字ではなく、熟語の1部として覚える(文脈)
3	新しく習った漢字を既習仮名や漢字と関連付ける(連想)	新しく習った漢字をできるだけ文や作文で使ってみる(文脈)
4	知っている漢字を意味でグループに分ける(連想)	知っている漢字を形・意味・音読みでグループに分ける(連想)
5	似ている漢字の違いを観察する(認知)	知らない漢字を見たら、その漢字をすぐ辞書で調べる(補償)

図11 漢字学習ストラテジー使用(上位)(2014年)

- 学習者は「知らない漢字を見たら、その漢字をすぐ辞書で調べる」という補償学習ストラテジーを前より使うようになった。
- 漢字辞書として使えるスマホのアプリと漢字の勉強・復習・練習をするためのアプリがよく使われており、これ以外の新しいストラテジーはアンケートの自由記述のところに見られなかった。

⇒2014年の調査ではスマホを使って漢字を学ぶ人が増えていることがわかった。

図12 学習者と教師の漢字学習ストラテジー使用の比較(2014年)

述のところに、スマホのアプリで漢字の勉強・復習、練習をする以外の新しいストラテジーはあまり見られませんでした。

教師の漢字教授ストラテジーと学習者の漢字学習ストラテジー使用に関して、二〇一四年の調査結果と二〇〇七年の調査結果で大きい変化は見られませんでした。また、調査結果で学習者も教師も認知ストラテジーをよく使っていることが見られました。たとえば、教師は漢字を教える際に、書き順を強調します。一方、学習者は新しい漢字を習うと、漢字の書き順を暗記します。また、教師は学習者に漢字を繰り返し書いて書かせます。一方、学習者は新しく習った漢字を覚えるために漢字を繰り返し書きます。そして、教師は漢字を教

はインターネット、スマホのアプリなどを利用して漢字を勉強したり、マイクロソフトオフィスのIMパッドを使って漢字の意味と読み方を調べたり、テレビ番組や映画の字幕を読んで、ポスターをつくって、新しく習う漢字を見えるところに貼る。他の人に漢字を教える、他の人とグループで勉強する。カラオケで歌いながら漢字の読みを練習する、日本人またはクラスメイトに知らない漢字の読み方、書き方を聞く。そして、リラックスするために漢字を勉強しながら音楽を聴くというストラテジーなどが報告されました(図11)。

二〇一四年の学習者と教師によく使われている漢字学習ストラテ

ジーの上位を二〇〇七年の調査結果と比べると、同じ傾向が見られます(図12)。学習者は形を覚えるストラテジーをよく使っていることがわかります。一方、教師は音を覚えるためのストラテジーをよく使っていることがわかりました。

また、二〇一四年の調査結果では上位にはきませんでした。学習者の辞書使用頻度が前より高くなっていました。その理由として、二〇〇七年に比べると、インターネット上で使える辞書や翻訳サイトに簡単にアクセスできるようになり、スマホに無料でダウンロードできる辞書や漢字を勉強するためのアプリが手にいれやすくなったからと考えられます。したがって、アンケートの自由記

教師の教授戦略	学習者の学習戦略
①「認知」教授戦略をよく使っている ・漢字を教える際、書き順を強調する ・漢字を学生に繰り返して書かせる ・漢字を教える際、それを既習の仮名や漢字と関連付ける	①「認知」学習戦略をよく使っている ・新しく習った漢字の書き順を暗記する ・新しく習った漢字を繰り返して書く ・新しく習った漢字を既習仮名や漢字と関連付ける
②「情意面」「教師の役割」に関するピルーフと相関がある	②「漢字の有効性」「情意面」「漢字学習法」に関するピルーフと相関がある

図13 学習者の漢字学習戦略と教師の漢字教授戦略の比較(2007年・2014年)

える際、導入しようとしている漢字を必修の片仮名か平仮名と必修の漢字に関連づけます。学習者の新しく習った漢字を覚えるために、それを必修仮名と必修漢字に関連づける習慣があります。このことから、教師の教授戦略は、学習者の学習戦略に影響を与えているといえます。ただし、教師の教授戦略は、教師の役割に一貫するピルーフと相関関係があり、学習者の学習戦略は、漢字の有効性、上意面、学習法に関するピルーフと相関関係があります。したがって、それぞれの戦略が働いている可能性があると考えられます(図13)。

この研究をするこ
とにより、教師は自
分の考えや考え方に
固執せず、もつ
と学習者の声を聞

おわりに

き、学習者の新しいアイデアを取り入れるなど、柔軟な姿勢が必要であることに気づきました。また、学習者と教師が異なるピルーフをもっていれば、異なるストラテジーを使用していることになり、教師と学習者のあいだに不一致が起こる可能性があります。学習者と教師が不安や不満をもち失敗につながりますので、学習者と教師のピルーフとストラテジー使用を調べることはたいせつで、よりよい授業を計画するのに役立つことがわかりました。

いままでの古典的な学習方法では、日本語能力試験のN1、N2レベルに到達することが難しかったため、学習者のニーズやゴールに向けた学習内容を検討する必要があります。たとえば、学習者の就職先でどのような日本語が必要かを知ったうえで指導できるようにするために、ニーズ調査もあわせて行う必要があるでしょう。

以上で私の報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

